

コープネットレポート

コープネットグループの広報誌

コープネットグループ理念
CO-OP ともに はぐくむ 暮らしと未来



唐丹町漁業協同組合(右手県釜石市)
代表理事組合長 上村勝利さん



絆・感謝 明日への確かな一歩

12月8日には、コープネット事業連合の赤松理
事長をはじめ、コープネットグループ各生協の組
合員理事の皆さんにご多忙のところ当地区にお
いでいただき、多額のご支援金を頂戴しました。
生協の皆様方の心温まるご支援と、たくさんの励
ましのお手紙は漁業者への何よりのプレゼントで
あり、心から感謝申し上げます。

唐丹産の生わかめは市民生協さいたま(さいた
まコープの前身)のプライベートブランド商品とし
て採用いただいて40年近くになります。わかめの
加工事業を始めたばかりでしたので、採用してい
ただいたことは本当にありがたく、現在まで事業を
継続できたのも生協組合員皆様方のご支援のお
かげと感謝申し上げます。

今回の東日本大震災により、漁港、漁港関連
施設、船舶及び養殖施設の全てを破壊されまし
た。湾内には破壊されたがれきの塊があちこちに
浮遊し、何をどうすればよいのか呆然とする日々で
した。住む家を失った漁業者も避難所で持ち合っ
た食料と水で過ごす毎日でしたが、物資の支援が

行き渡るようになってからは海岸に集まってがれき
の除去について話し合うようになりました。クレー
ン船の支援により、何とかわかめ採苗時期の7月
までには撤去が終了し、採苗施設を敷設するに
至り、10月末までには養殖施設の敷設が完了し
ました。11月中旬には通常の半分ですが種苗の
巻き付けができ、今春の収穫時期には、水揚げ
が可能となったところでございます。

今年わかめを他の生協の指定工場で加工
し、「CO・OP岩手県産生わかめ」としてお届けす
る予定です。来年には、失った加工場を新設し、
唐丹で加工したわかめを生協の組合員の皆様方
にお届けすることができると思います。頂きました
支援金は、そのための復旧、復興のために大事
に使わせていただきたいと思いますので、末永い
お付き合いをお願い申し上げます。

最後になりましたが、生協のますますのご繁栄
と組合員の皆様方のご健康をご祈念申し上げま
す。本当にありがとうございます。

商品情報



▲岩手県産米「ひとめぼれ」、
岩手県産オリジナル酵母
「ゆうこの想い」を使用しました

岩手県大槌町の地酒の 販売で復興支援

コープデリ宅配では、1月30日から1週間、岩
手県大槌町の地酒「浜娘 純米生貯蔵酒」を
3,000本の数量限定で販売しています。1本お
買い上げにつき100円を「東日本大震災復興支
援募金」として積み立てます。

「浜娘」の醸造元である岩手県大槌町の赤武
酒造株式会社は、東北地方の生協向けに「CO・
OP虹の宴」(日本酒)、「CO・OP料理酒」を製
造していました。赤武酒造は震災による津波で
社屋、醸造施設の一切が流出しましたが、昨年
10月より盛岡市の酒造会社の協力を受け清酒
の醸造再開を果たしました。コープネットグルー
プでは、いわて生協が赤武酒造の事業再開を支
援していた経緯もあり、東北復興支援の一環として
商品販売を決定しました。

2011年度12月度概況 (会員生協合計)

事業高 442.6億円 (12月度)	組合員数 394万人
3644.6億円 (4~12月度累計)	店舗数 172店舗
出資金 1061.4億円	職員数 正規職員 4,273人
宅配センター数 123カ所	パート・アルバイト職員 16,503人



▲コープが取り組んでいる子どもたちへの環境教育などについてご案内しました

「エコプロダクツ2011」に出展 1万人に環境の取り組みを紹介

12月15日~17日、ちばコープ・さいたまコープ・コープとうきょう・コープネット事業連
合は4者共同で「エコプロダクツ2011」に出展し、コープのブースに1万人以上が来場
しました。

今年は「毎日のくらしから、つなげよう。コープみんなでエコ!」をテーマに、店舗の省エ
ネの取り組みや、環境配慮商品の取り扱いなどをご紹介し、コープネットグループの環
境の取り組みを実際に見たり触ったりすることで実感していただきました。

「エコプロダクツ」(主催: 社団法人 産業環境管理協会、日本経済新聞社)は、750
以上の企業・行政・NPOなどが環境に配慮した商品やサービス、取り組みを紹介する、
国内最大級の環境展示会です。2011年度は、3日間で18万人以上が来場しました。



▲コープのブースは、たくさんの来場者でにぎわいました



東日本大震災の復興支援募金活動を2012年も継続

コープネットグループ各生協は、6月21日から実施している「東日本大震災復興支援募金」を、2012年1月以降も継続します。

東日本大震災の募金は、昨年3月14日から義援金としてお渡しする「東北地方太平洋沖地震義援募金」を開始し、コープネットグループ全体で約5億2,000万円が寄せられました(6月20日で受付終了)。今回継続する「東日本大震災復興支援募金」には、12月20日までに約7,000万円が寄せられ、累計で5億9,000万円以上になりました。復興には長期的な支援が必要と判断し、今年12月まで継続して募金を呼びかけます。



▲12月8日には、被災された唐丹町漁業協同組合(岩手県釜石市)へ、組合員から寄せられた激励の寄せ書きと、「東日本大震災復興支援募金」の一部を支援金としてお渡ししました

ちばコープ 仮設住宅で「ふれあい喫茶」開催

ちばコープは、12月14・21日、1月7日に、千葉県旭市飯岡地区の仮設住宅で「ふれあい喫茶」を開催しました。また、12月25日には職員ボランティアによる炊き出し支援を行いました。

「ふれあい喫茶」は、地域住民の交流の場として高齢者や子育て中の方などが気軽に参加しておしゃべりを楽しむことができるイベントで、復興支援活動の一つとして地域の組合員が中心になって開催しています。集会室に茶菓子やコーヒーなどを用意し、ほっとできる時間、ゆっくり話せる場を提供することで、仮設住宅内のコミュニティーづくりを支援します。

12月14日は仮設住宅にお住まいの方13人が参加し、組合員や職員と交流。今後も、組合員や職員ボランティア、また産直団体にもご協力いただき支援を続けていく予定です。



▲12月21日の「ふれあい喫茶」では、編み物サークルの組合員4人が手芸教室を開催し、参加者8人とマフラーを作りました

フード・アクション・ニッポンアワード2011 「食べて応援しよう!賞」を受賞

コープネットグループは、「日本を、食卓から元気にしたい。」をメッセージに食料自給率向上をめざしてさまざまな取り組みを積極的に推進しています。この取り組みの一環として行っている「東北・関東地方の製品の販売促進と取引先への支援」が、*フード・アクション・ニッポンアワード2011「食べて応援しよう!賞」を受賞しました。コープネットグループとしては、昨年の「コミュニケーション・啓発部門 優秀賞」に続く、2年連続の受賞となりました。

コープネットグループは、今後も東日本大震災での被災者の支援はもとより、被災地や被災取引先の復興支援に積極的に取り組んでいくことを通じて、食料自給率向上の取り組みを積極的に進めていきます。

※主催：フード・アクション・ニッポンアワード2011実行委員会、共催：農林水産省で、食料自給率向上に寄与する事業者・団体などの優れた取り組みを表彰することにより、食料自給率の向上を目指して実施されました



▲フード・アクション・ニッポンアワード2011「食べて応援しよう!賞」の表彰式

ユニセフ「ハンド・イン・ハンド募金」に協力

いばらきコープ・コープぐんま・ちばコープ・さいたまコープがユニセフ「ハンド・イン・ハンド募金」に協力し、店舗や駅前で組合員と職員が募金を呼びかけました。

この募金は、(公財)日本ユニセフ協会が11月と12月に学校、団体・企業などに参加を呼びかける募金活動です。1979年の国際児童年に始まり、33回目を迎えた今回は、

「SOS! 栄養不良に苦しむ小さな命を守ろう!」というテーマで行われました。

ご協力いただいた募金は、世界150以上の国と地域で、子どもたちの命と健やかな成長を守るためにユニセフが実施している保健、栄養、水と衛生、教育、保護などの事業に役立てられます。

▼さいたまコープは店舗や駅前など、27カ所で募金を呼びかけました。写真は12月23日の春日部駅での募金活動



▲コープぐんまは3店舗で募金を呼びかけました。写真は12月4日のコープ新井店での募金活動



▼いばらきコープは水戸市内2カ所で募金を呼びかけました。写真は12月23日の水戸駅での募金活動



▲ちばコープは店舗や宅配センターなど、12カ所で募金を呼びかけました。写真は11月27日のコープ八千代店での募金活動

コープネットエリア8都県JA連絡会を開催

12月15日、コープネットエリア8都県JA連絡会の会合をJA全農営農・技術センター(神奈川県平塚市)で開催しました。連絡会は、コープネットグループ各生協とコープネットおよび、同じ地域の各都県のJA本部とJA全農が共同し、地域農業の振興や農畜産物の生産・消費を拡大していくことなどを目的に2008年12月に結成。意見交換の場としてお互いの組織が取り組んできたことや基本方針を確認しています。

